

(「一寸先は光です」)

校長だより

平成29年11月22日(水)

第19号

「我が子を入れたくなる学校をつくりたい」(初代校長)

那覇西高等学校長 長濱 雅仁

「いつも太陽の光に顔を向けていれば、影を見ることはありません。」 —ヘレンケラー—

◆大会・コンクール等予定・結果

- ・サッカー選手権大会ソフト校那覇西化ブレは11月4日(土)に準決勝で宜野湾高校と対戦し、残念ながらPKの末、4-5で惜敗しました。「僅差の大差」という言葉があります。忘れないください!
- ・県高校駅伝大会は2日、今帰仁で開催され、女子は3位、男子は途中棄権しました。全国は逃しましたが、女子は九州大会出場権を獲得しました。がしかし、18日の本戦は24位に終わりました。
- ・高校新人バドミントン大会は2日、具志頭社会体育館で開催され、決勝戦で男子は興南高校に25-26で惜敗しました。女子も浦添高校に15-29で敗れました。大相撲の先代若乃花は常に「3年先の稽古」と話をされていたそうです。「次年度の高校総体優勝」を見据えた堂々とした戦いぶりに感激しました。サッカー、バドミントン、駅伝ともにこの悔しさを忘れることなく、日頃の練習を大切にしてください。以上に「チーム那覇西」で取り組んでほしいものです。那覇西の応援・気合いはバウンスでした!
- 全国高校バドミントン2017 県予選が8日、沖縄産業支援センターで開かれ、本校の野村紳二君(2-2)が優勝し、東京で開催される全国大会の出場を決めました。なお、準優勝も本校の具志凛君(1-6)でした。本校からは2年連続の優勝者です。(本校1070名の中から、8名の代表が参加しました!)

■校内外の小さな変化・成果がありました!気がついたでしょうか?

- ・12月中旬に始まるバドミントン選手権大会(選抜予選)に向け、早速女子が17日からセンターで合宿。ちなみに女子バスケ部の池宮城先生、ソフトテニス部の徳元先生の目もなぜかプロシキ化してきました。ウグ「グローバル教育はふるさと教育である」 —全国英語科・国際科秋田大会講演から—

教育とは、ノリカイリキリである。大学生1週間当たりの学習時間11時間以上は日本が14.8%、米国は58.4%。0時間は日本が9.7%、米国は0.3%である。日本の大学の3つの「ない」は、①勉強しない ②密度の濃い(レベルの高い)授業をしない③教学プログラムのバリエーションがない。又、ギリシア時代の教育は音楽と体育を重視した。音楽は情操、感性、礼儀を、体育は体力、人間関係等を育むためであった。これからの社会では専門的な知識が必要な一方、幅広い総合力も必要であるというのがグローバル教育の考え方。それにより異なる考え方やアプローチ方法が理解でき、豊かな人生を送ることが可能。グローバル教育の対話的授業は予習復習は不可欠である。英語は知識としてでなく、使うことによって定着していくもの。英語の授業は金魚鉢のようなもの。外へ出て活用することが肝要。

国際人文科海外研修から (団長としての総括)

11月7日から14日まで国際人文科の海外研修に7組担任の稲嶺里美先生、8組担任の長嶺一司先生、人文科主任の神里哲先生の3名の職員と私が団長として参加しました。台湾の台北を経由してメルボルンに入りました。初日、メルボルン市内を見学し、見学後は、各ホームステイ先へ移動。2日目から現地の高校生(4校)と交流しました。その間、ワイルドパーク施設(コアラ、カガルの生態系の学習)、メルボルン文化施設(オーストラリア先住民)を訪問しました。最終日は、ホストファミリーとお別れし、再びメルボルン市内の見学。終了後空港へ移動し、メルボルンを出発。翌日帰路に着きました。現地の添乗員、ホスト先から「コミュニケーションが素晴らしかった。ヒアリング、理解力のレベルがかなり高かった。生活態度も申し分ない。」との高い評価はこれまでの英語科の先生方の取組の成果(人文科集会、授業、英検等)が結実したものと考えています。シドニーハイスクールの図書館の壁に "Life isn't About Waiting for the storm to pass.... It's about learning to Dance in the Rain!" と書かれていました。(人生は、どんな困難な状況にあっても、希望を持って歩めば幸せを見いだすことができる)